

平成 21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472300480	事業の開始年月日	平成14年9月1日	
		指定年月日	平成14年9月1日	
法人名	有限会社 あしすと			
事業所名	グループホーム はーもにー			
所在地	(250-0051) 神奈川県小田原市北ノ窪395-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活能力が低下しても、住み慣れた環境の中でいつまでも過ごしていただけるよう、スタッフ一同、介護の力を信じて医療や地域の方々のご理解・ご協力の元、楽しい思い出を一つでも多く作って頂ける様にあきらめない介護を開所以来実践しています。また、日々の生活環境や業務も現状に合わせ 都度、現場スタッフと相談しながら改善する事に努めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①小田原市の北端に位置し、近隣生活地域の面では南足柄市と小田原市両市にまたがっている。このホームの素晴しさは随所に工夫が為されている点である。具体的には①書類を書き保存する場所に戸があり使わない時は締めて目立たないようにしている。②洗濯機設置場所にも同様に戸がある。③ご利用者の洗った食器の清潔を保つ為食器洗浄器で再洗浄している。④入り口への道はスロープで美的に迂回し門へ到達する時間がかかるよう工夫してある。⑤プライバシーにも配慮しパブリックゾーンとプライベートゾーンの区別を考えプライベートゾーンのみでも生活可能にしている。⑥居宅介護事業所を併設し、将来、会社としての成年後見制度を見据え、双方で近隣の相談に応じている。⑦ケア計画ソフト採用により1次計画素案には時間をかけない(勿論カンファレンスで最終計画は充分検討する)。⑧非常時通報にCOCOセコムに加入し不審者対応に備えている。⑨パート評価体制を社労士と相談しステップアップや昇給制度を確立した。⑩ノロウィルス対策にいち早く専用救急セットを各ユニットに配備した。⑪新型インフルエンザ・ノロウィルス対策としてプラズマブラスターをいち早く各階に導入した。などアイデア・工夫が多々あり、これにより重点的な厚いケアと、設立以来の大方針であるあきらめない介護を追求している。⑫地域との関係では、町内会へ加入し、役員も引受け、地域行事への参加、文化祭への出展など町内会との連携に努めている。小田原市社協の紹介で散髪ボランティアが来てくれている。福祉大学生の実習の受入れ、中学校の体験学習の受入れなど実施している。町内会の敬老会が公民館で行われた時、車椅子の貸し出しなどの協力をしている。介護計画は兎角出来ないことのチェックになりがちであるが、出来ることに着目したテーマを個別プランに載せるよう指導している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム はーもにー
ユニット名	#

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で一人一人が安心して生活が送れる様な環境を作り、日々ミーティング等で話し合い、方向性・考え方を決め取組んでいる。	地域の中で一人一人が安心して生活が送れる様な環境を作り、日々ミーティング等で話し合い、方向性・考え方を決め、取組んでいる。ケアについては「あきらめない介護」を迫及している。ADLは低下し、ターミナルに向かう時、利用者情報、医療情報を与え、スタッフ自身で方向性・考え方を決め取組んでいる。何が必要かを充分考えてもらっているが、先ず社員が理解し、パートさんにも理解してもらえるよう指導している。オーナーはこのホームが永続するために職員の若返りを視野に入れた教育を考え推進している。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や活動には積極的に参加し交流に取組んでいる。地域の方々にも理解を得られて来ている。	行事や活動には積極的に参加し交流に取組んでいる。地域の方々にも理解を得られて来ている。町内会に加入し、組長を引き受け、会員としての活動（道路清掃等）に参加している。ヘルパー養成学校の実習生を受け入れている。所内のマネジメントが出来る人材が増え、研修資料も順次完備しつつある。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会との話し合いや運営推進会議に自治会役員に委員として参加してもらうなど日常生活の中で取組んでいる。文化祭への作品提供や敬老会での車椅子の貸し出しも行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年11月～定期的に行っている。委員の皆様から積極的に意見を頂き、サービス向上に活かせる様取組んでいる。	H19年11月～定期的に行っている。委員の皆様から積極的に意見を頂き、サービス向上に活かせる様取組んでいる。開催は現状、年4回程度である。基本的には活動報告が中心であるが、個人を明確にしない認知症の実例の紹介、介護保険法改定の説明、消防の立ち入り検査・実習の受入れなど共通の話題も取り入れて行っている。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる	行政への情報提供や課題に向けた協働に取組んだり、地域包括支援センターの担当者に声掛けもしている。	行政への情報提供や課題に向けた協働に取組んだり、地域包括支援センターの担当者に声掛けもしている。小田原市のグループホーム関係者で立ち上げたグループホーム連絡会は独自で事業を展開するまでに成長し、小田原市もその有効性を認め活用を図っている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その都度、スタッフ同士での確認や管理者から説明を受けている。それに変わる対策も含め話し合える様にしている。	その都度、スタッフ同士での確認や管理者から説明を受けている。それに変わる対策も含め話し合える様にしている。介護側と家族側とに「虐待と感じる点」の違いがあり、時折話し合いを持たないといけないと考えている。（例えば人の手薄な時間帯の問題など）鍵はかけていない。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止対策会議に参加したりミーティング時にその内容をスタッフに伝えスタッフ同士も日々お互いに気を付け話し合うなど、対応・防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内に居宅支援事業を設置し成年後見制度を支援出来る体制を整えている。運営推進会議でも説明会を行った。 (自治会内の看板を設置、研修にも参加)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問を聞き取りながら説明を行っている。又解約の際には医師や関係者と十分な話し合いをし、その都度かみくだいた文章の内容を付け加え説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	聞き取りをし、対策案を検討したり、運営推進会議の中でも改善につながる様、対応する体制を取っている。窓口も設け明示している。来園時には、声掛け等を行い確認している。	聞き取りをし、対策案を検討したり、運営推進会議の中でも改善につながる様、対応する体制を取っている。窓口も設け明示している。来園時には、声掛け等を行い確認している。機関紙、お便りで情報を流し、何時でも意見を云ってもらえる体制は作っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見や提案を聞く機会を設け対応している。	ミーティングや会議などで意見や提案を聞く機会を設け対応している。行事等については担当を決めている。社員には1ステップ上げて、業務改善にまで踏み込んでもらうよう指導している。ミーティングの際には先にテーマを提示し、参加してもらっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける様、研修への参加や資格取得へのサポートやアドバイス、手当の支給をする体制もと、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、出来る限り参加してもらい報告書の作成をし伝達・確認をし実践に取り組める様に進めている。施設内でも研修を行ったり適任者を配置しアドバイス等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県の協議会の研修に参加や地域の同業者とのネットワーク作りや研修会等への参加を通して質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には、必ずご本人とお会いし、要望などをお聞きし、状況の確認を行い安心を確保して頂ける様、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られたご家族にはその他の情報を含めた内容を提供し、そのご家族が安心できるよう、対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く聞き取りをし、理解・納得して頂ける様、話し合いをし見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えられたり・話を聞いたり・本人の知っている事・出来る事などを活かしながら、日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時に声掛けをしたり、報告をし一緒に支援をしていける関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいらした家や場所に行って頂き、ご近所の方やお友達にも会って頂いている。	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいらした家や場所に行って頂き、ご近所の方やお友達にも会って頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、プライバシーを守りながら、利用者同士が皆で生活している事への関わりや楽しさを感じて貰える様、また支え合える様、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	声掛けをしたり、相談に乗ったりなどをし、大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思い・意向を汲取り希望に添える様、言葉かけや雰囲気作りを行い、その希望や意向を把握出来る様、ミーティング等も含め日々検討している。	ご利用者の思い・意向を汲取り希望に添える様、言葉かけや雰囲気作りを行い、その希望や意向を把握出来る様、ミーティング等も含め日々検討している。介護計画は兎角出来ないことのチェックになりがちであるが、出来ることに着目したテーマを個別プランに載せるよう指導している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴・個性・価値観などを確認し、対応しながら、把握する様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来そうな事をする為の工夫や環境作りをしたり、日々の生活の中でどの様な変化があるかなどを見極め、把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながら、その人に合った必要とされている計画を立て、現状に即した物を作成している。	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながら、その人に合った必要とされている計画を立て、現状に即した物を作成している。モニタリングについては”介護計画に沿っているか””計画そのものが正しかったか”を常に念頭に置きながらモニタリングするよう努めている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、様々な情報を共有出来る体制になっており、都度ミーティングなどをして計画の見直し等にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて柔軟なサービスや支援の多機能化に取り組んでいる。又、姉妹施設や併設の居宅支援事業所と連携して情報の提供を行ったりしながら、相談援助をする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事へ積極的に参加したり、ボランティアで書道の先生にも自治会の方に来て頂いたり、地元の方々に協力を頂きながら、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。	出来るだけ希望を伺い、納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。現在は2つの医院から訪問診療に来て頂いている。歯科は隣の歯科医院に通院している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師とは、日常的に相談出来る体制にあり、週1回の訪問支援や緊急時の支援や対応も受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、定期的に見舞いに行き、病状等を確認したり、声掛けにて安心感を持ってもらえる様、対応している。又、病院関係者との相談や話し合いも都度行い対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、ご家族の希望やDr. の意見を参考にしながらスタッフも含め十分に話し合い、説明をし、方針・対応を共有しながら支援に取り組んでいる。	その都度、ご家族の希望やDr. の意見を参考にしながらスタッフも含め十分に話し合い、説明をし、方針・対応を共有しながら支援に取り組んでいる。医療に任せるタイミングの問題では三者で話し合いご家族の意思を確認して方向を決めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で対応訓練をしたり、オンコール体制をとる等、随時、対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火訓練などを行い指導を受けたり、地域の消防団の会合時に入居者の内容について説明させて頂いたり、施設見学に来て頂いたりして、地元自治会と連携させてもらっている	避難訓練・消火訓練などを行い指導を受けたり、地域の消防団（消防署ではない）の会合時に入居者の内容について説明させて頂いたり、施設見学に来て頂いたりして、地元自治会と連携させてもらっている	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をとっている。	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をとっている。ホームのプライバシーに関する方針を示している。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意志を尊重しながら働きかけたり、内容を理解して頂ける様に説明（話し）を繰り返すなどしながら、ご本人が希望を表せる事が出来る様、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過して頂ける様に支援・配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや希望を取り入れ、意志を尊重しながら状況に合わせ支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や食事の準備・片付け・盛付けや色彩を工夫する等と一緒にしてもらい楽しく食事をして頂ける様に心掛けている。又、一人一人に合わせ、食べやすさに対しての工夫もしている	買物や食事の準備・片付け・盛付けや色彩を工夫する等と一緒にしてもらい楽しく食事をして頂ける様に心掛けている。又、一人一人に合わせ、食べやすさに対しての工夫もしている。独自のメニューで利用者と一緒に行き物に行き作っている。八百屋、魚屋、米屋等地元業者から仕入れ、配達もお願いして地域との共存を図っている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量を提供している。水分摂取量は意識的に行う必要がある人や形態を変えて対応する人など状況に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口ゆすぎや舌磨き・歯磨き・入歯の洗浄など一人一人に応じたケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人に合わせた誘導や声掛けなどで対応し、オムツ使用時も状況に合わせた使い方をしプライバシーに配慮する様に心掛けて支援している。	一人一人に合わせた誘導や声掛けなどで対応し、オムツ使用時も状況に合わせた使い方をしプライバシーに配慮する様に心掛けて支援している。新規の入居者は先ずトイレでの排泄を実施し、個々のレベルに合わせてどう対応するかを考えるようにしている。最低限守るべき方針を決め、段階を踏んだ対応を心がけている。あきらめないケアをこの点でも進めている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品等、毎日の食事で工夫できる事を実施し、運動も毎日行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	好きなTVが観られる様、時間やタイミングをはかり、ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合う様、入浴を楽しんでもらえる様に対応している。	好きなTVが観られる様、時間やタイミングをはかり、ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合う様、入浴を楽しんでもらえる様に対応している。週2回以上の入浴を心がけている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時やその方の状態に合わせて休息を取って頂いたり安眠休息が取れる様、冷暖房・加湿器の設置をし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用・用法・用量については理解し薬剤情報も確認出来る体制を取り、支援と症状の変化に気を付けながら確認に努めている。誤薬がおきない様、声を掛け合いながら投薬をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割分担や買物に行き嗜好品をお聞きしたり楽しみながら希望に合わせて季節感・安らぎ・潤いをもたらす様、工夫も取り入れ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物に出掛けたり外出希望の時はご家族の協力を得ながら支援している。又、地域行事の参加等、楽しみながら行える様、支援している。	散歩や買物に出掛けたり外出希望の時はご家族の協力を得ながら支援している。又、地域行事の参加等、楽しみながら行える様、支援している。車椅子の人や重度化した人が増え、現在では30分程度の個別対応を行っている状況である。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望により所持されたり、ご家族との話し合いで、お小遣いを預かり、希望や必要に応じ使用出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話を入れられる様にしてあり、使用している方もいらっしゃるが、ご本人の希望に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの共用空間を用意し、安らぎや潤いをもたらす様、工夫し、不快や混乱を招かない配慮をし、家族的で居心地良く暮らして頂ける様、支援している。	広めの共用空間を用意し、安らぎや潤いをもたらす様、工夫し、不快や混乱を招かない配慮をし、家族的で居心地良く暮らして頂ける様、支援している。季節の飾りつけ（X'mas、七夕等）を行っている。新型コロナウイルス対策としてプラズママスターをいち早く各階に導入した。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂は開放的に利用出来るが仕切などで個別に利用する事も可能になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや使い慣れた、好みの物を使用し、本人が安心し、居心地良く過ごせる様、配慮している。	個人の物品の持ち込みや使い慣れた、好みの物を使用し、本人が安心し、居心地良く過ごせる様に配慮している。保温換気（ロスナイ：温かさを残して換気する）を設置している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	意志を尊重し声掛け、目印手すり・滑り止め等安全に失敗の無い様配慮し工夫している。利用者の重度化に対応し安全な介護・安心し自立した生活が送れる様設備機器を積極的に導入した		

事業所名	グループホーム はーもにー
ユニット名	b

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で一人一人が安心して生活が送れる様な環境を作り、日々ミーティング等で話し合い、方向性・考え方を決め取組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や活動には積極的に参加し交流に取組んでいる。地域の方々にも理解を得られて来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会との話し合いや運営推進会議に自治会役員に委員として参加してもらうなど日常生活の内で取組んでいる。文化祭への作品提供や敬老会での車椅子の貸し出しも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年11月～定期的に行っている。委員の皆様から積極的に意見を頂き、サービス向上に活かせる様取組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる	行政への情報提供や課題に向けた協働に取組んだり、地域包括支援センターの担当者に声掛けもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その都度、スタッフ同士での確認や管理者から説明を受けている。それに変わる対策も含め話し合える様にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止対策会議に参加したりミーティング時にその内容をスタッフに伝え、スタッフ同士も日々お互いに気を付け話し合うなど、対応・防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内に居宅支援事業を設置し成年後見制度を支援出来る体制を整えている。運営推進会議でも説明会を行った。 (自治会内の看板を設置、研修にも参加)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問を聞き取りながら説明を行っている。又解約の際には医師や関係者と十分な話し合いをし、その都度かみくだいた文章の内容を付け加え説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	聞き取りをし、対策案を検討したり、運営推進会議の中でも改善につながる様、対応する体制を取っている。窓口も設け明示している。来園時には、声掛け等を行い確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見や提案を開く機会を設け対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける様、研修への参加や資格取得へのサポートやアドバイス、手当の支給をする体制もと、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、出来る限り参加してもらい報告書の作成をし、伝達・確認をし実践に取り組める様に進めている。施設内でも研修を行ったり適任者を配置しアドバイス等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県の協議会の研修に参加や地域の同業者とのネットワーク作りや研修会等への参加を通して質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には、必ずご本人とお会いし、要望などをお聞きし、状況の確認を行い安心を確保して頂ける様に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られたご家族にはその他の情報を含めた内容を提供し、そのご家族が安心できるように対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く聞き取りをし、理解・納得して頂ける様に話し合いをし見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えられたり・話を聞いたり・本人の知っている事・出来る事などを活かしながら、日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時に声掛けをしたり、報告をし一緒に支援をしていける関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいらした家や場所に行って頂き、ご近所の方やお友達にも会って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、プライバシーを守りながら、利用者同士が皆で生活している事への関わりや楽しさを感じて貰える様、また支え合える様、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	声掛けをしたり、相談に乗ったりなどをし、大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思い・意向を汲取り希望に添える様、言葉かけや雰囲気作りを行い、その希望や意向を把握出来る様、ミーティング等も含め日々検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴・個性・価値観などを確認し、対応しながら、把握する様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来そうな事をする為の工夫や環境作りをしたり、日々の生活の中でどの様な変化があるかなどを見極め、把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながら、その人に合った必要とされている計画を立て、現状に即した物を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、様々な情報を共有出来る体制になっており、都度ミーティングなどをして計画の見直し等にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて柔軟なサービスや支援の多機能化に取り組んでいる。又、姉妹施設や併設の居宅支援事業所と連携して情報の提供を行ったりしながら、相談援助をする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事へ積極的に参加したり、ボランティアで書道の先生にも自治会の方に来て頂いたり、地元の方々に協力を頂きながら、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師とは、日常的に相談出来る体制にあり、週1回の訪問支援や緊急時の支援や対応も受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、定期的に見舞いに行き、病状等を確認したり、声掛けにて安心感を持ってもらえる様、対応している。又、病院関係者との相談や話し合いも都度行い対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、ご家族の希望やDr. の意見を参考にしながらスタッフも含め十分に話し合い、説明をし、方針・対応を共有しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で対応訓練をしたり、オンコール体制をとる等、随時、対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火訓練などを行い指導を受けたり、地域の消防団の会合時に入居者の内容について説明させて頂いたり、施設見学に来て頂いたりして、地元自治会と連携させてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をとっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意志を尊重しながら働きかけたり、内容を理解して頂ける様に説明（話し）を繰り返す行うなどしながら、ご本人が希望を表せる事が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過ぎて頂ける様に支援・配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや希望を取り入れ、意志を尊重しながら状況に合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や食事の準備・片付け・盛付けや色彩を工夫する等と一緒にしてもらい楽しく食事をして頂ける様に心掛けている。又、一人一人に合わせて、食べやすさに対しての工夫もしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量を提供している。水分摂取量は意識的に行う必要がある人や形態を変えて対応する人など状況に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口ゆすぎや舌磨き・歯磨き・入歯の洗浄など一人一人に応じたケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人に合わせた誘導や声掛けなどで対応し、オムツ使用時も状況に合わせた使い方をしプライバシーに配慮する様に心掛けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品等、毎日の食事で工夫できる事を実施し、運動も毎日行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	好きなTVが観られる様、時間やタイミングをはかり、ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合う様、入浴を楽しんでもらえる様に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時やその方の状態に合わせて休息を取って頂いたり安眠休息が取れる様、冷暖房・加湿器の設置をし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用・用法・用量については理解し薬剤情報も確認出来る体制を取り、支援と症状の変化に気を付けながら確認に努めている。誤薬がおきない様声を掛け合いながら投薬をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割分担や買物に行き嗜好品をお聞きしたり楽しみながら希望に合わせて季節感・安らぎ・潤いをもたらす様、工夫も取り入れ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	散歩や買物に出掛けたり外出希望の時はご家族の協力を得ながら支援している。又、地域行事の参加等、楽しみながら行える様、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望により所持されたり、ご家族との話し合いで、お小遣いを預かり、希望や必要に応じ使用出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話を入れられる様にしてあり、使用している方もいらっしゃるが、ご本人の希望に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの共用空間を用意し、安らぎや潤いをもたらす様、工夫し、不快や混乱を招かない配慮をし、家族的で居心地良く暮らして頂ける様、支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂は開放的に利用出来るが仕切などで個別に利用する事も可能になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや使い慣れた、好みの物を使用し、本人が安心し、居心地良く過ごせる様、配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	意志を尊重し声掛け、目印手すり・滑り止め等安全に失敗の無い様配慮し工夫している。利用者の重度化に対応し安全な介護・安心し自立した生活が送れる様設備機器を積極的に導入した		

目 標 達 成 計 画

事業所 有限会社あしすと

グループホームは一もに一

作成日

平成22年2月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	(有) あしすとGHは一もに一としてチームワークや理念を共有し高めていく為には、今改めて何を考えていかなければならないか。	各スタッフが法人の介護に対する理念や方向性を理解し、社員を中心にユニットや事業所の垣根を越えその意識を共有出来る事。	各事業所で問題や良い点を会議において取り上げ意見や情報の交換をし、結果を各事業所のスタッフに伝えていく。	1年間
2	13	GHは一もに一のスタッフとして介護職者として意識をさらに向上させる為には(低下させない)なにが必要か。	スタッフが常に利用者の方々中心という意識を持ち、チームとして今取り組むべき課題を明確にしながら日々考える力を養っていく事。	研修やミーティング・カンファレンスなど事業所内外で得たものを勉強会等で共有し、互いに刺激しあえる関係・環境を構築する。	半年間
3	11	介護業務を提供する上での意識の持ち方・考え方あるいは業務内容についてどのような視点が必要であるか。	利用者の方々のQOLの向上を常に目指し、何を望んでいられるか日常生活の中で感じる事が出来る事。	日常の中で業務に流されず、しっかりと利用者の方々の声なき声に耳を傾け、その事をカンファレンスやミーティングで話し合い、どんな支援をする事が出来るのかという共通認識を持って介護に当たる事が大切と考えられる様になる。	2010/4/19
4	33	終末期での対応に緊急時を含め、統一した理解を持ち、不安感を解消出来るか。	医療職と共に、ご家族と協力してチームで支えるターミナルケアが提供出来る事。	Dr. の診断から始まり、Ns. による看護計画の作成・介護職による看取り計画の作成等ご家族や本人の希望に添った対応が介護職として共通した理解の元で出来る様、ミーティング等でしっかりと理解・確認が出来る様な体制を確立する。	半年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。